

今夏の電力需給状況

2015年11月4日
北海道電力株式会社

1. 今夏の電力需要実績

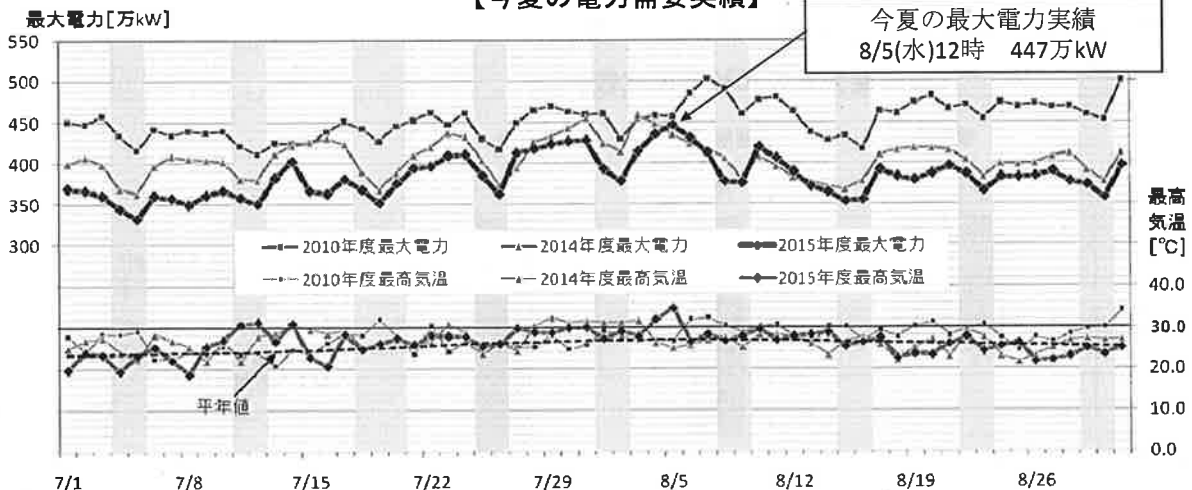
- ・今夏(7月から8月)の平日の最大電力の平均は、猛暑であった2010年度と比較すると14.6%、昨夏と比較すると5.7%減少しています。
- ・また、8月5日に最高気温が34.5℃となりましたが、最大電力は447万kWとなり、今夏の最大電力想定472万kWを下回りました。

【最大電力・最高気温の平均値比較】

[万kW、℃]

年度	平日最大電力平均	最高気温平均	
		7月	8月
2010	460.3	25.8	29.1
2014	417.0	27.0	26.6
2015	393.1	26.0	26.4
2015/2010	▲14.6%	+0.2	▲2.7
2015/2014	▲5.7%	▲1.0	▲0.2

【今夏の電力需要実績】



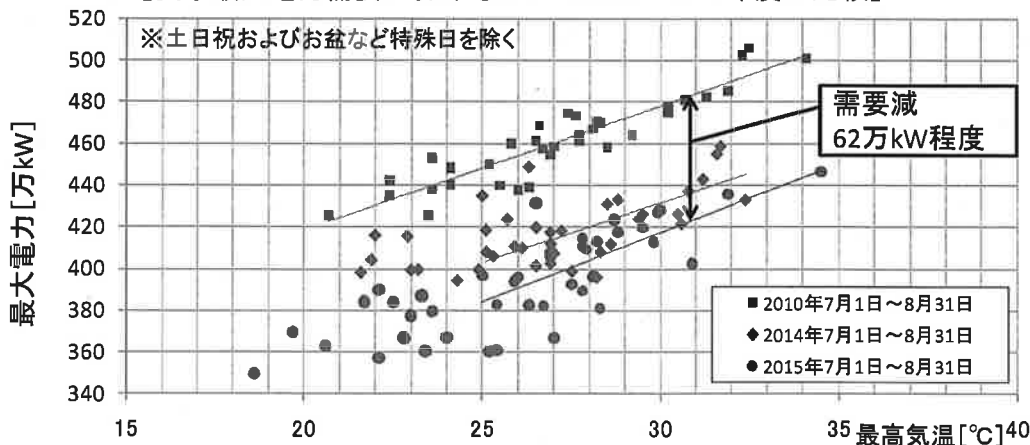
2. 気温影響を考慮した最大電力の比較

- 今夏と2010年度および2014年度の平日の最大電力について、気温影響を考慮して比較した場合、景気による影響等は含まれるものの、2010年度実績との比較では平均で62万kW（12.8%）程度、2014年度実績との比較では16万kW（3.7%）程度の需要減となっております。

お客さまのご協力による節電効果が現れているものと考えております。

- なお、震災以降は25℃以下での気温と需要の増減の相関は弱くなってます。これは、比較的涼しい日は空調の使用を控えるなど、お客さまの節電へのご協力によるものと考えられます。

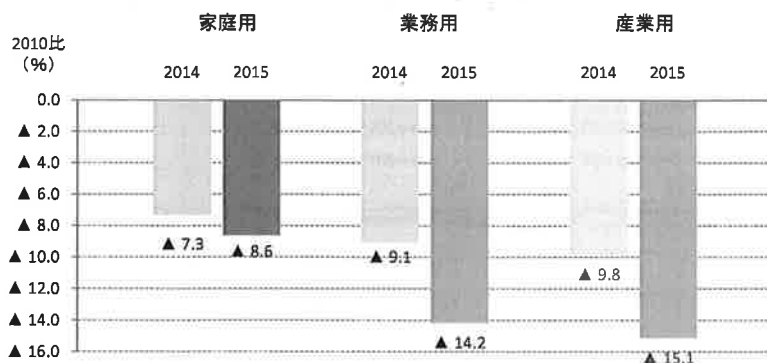
【夏季最大電力需要における2010・2014・2015年度の比較】



3. 販売電力量(kWh面)における特徴

- 電力量(kWh)は、節電のご協力などにより、2010年度と比較して家庭用は8.6%、業務用は14.2%、産業用は15.1%下回ってます。
- 用途別の状況について、家庭用では照明・テレビ・冷蔵庫といった機器を中心に、節電が定着しているものと考えられます。
- 業務用および産業用は、照明の間引きやこまめな消灯に加え、空調稼働の抑制、製造機器稼働の工夫などの節電が定着しているものと考えられます。
- なお、業務用および産業用は、節電にご協力いただいたことに加え、生産動向や契約電力の減少などの影響も含まれます。

【販売電力量の2010年度比較】

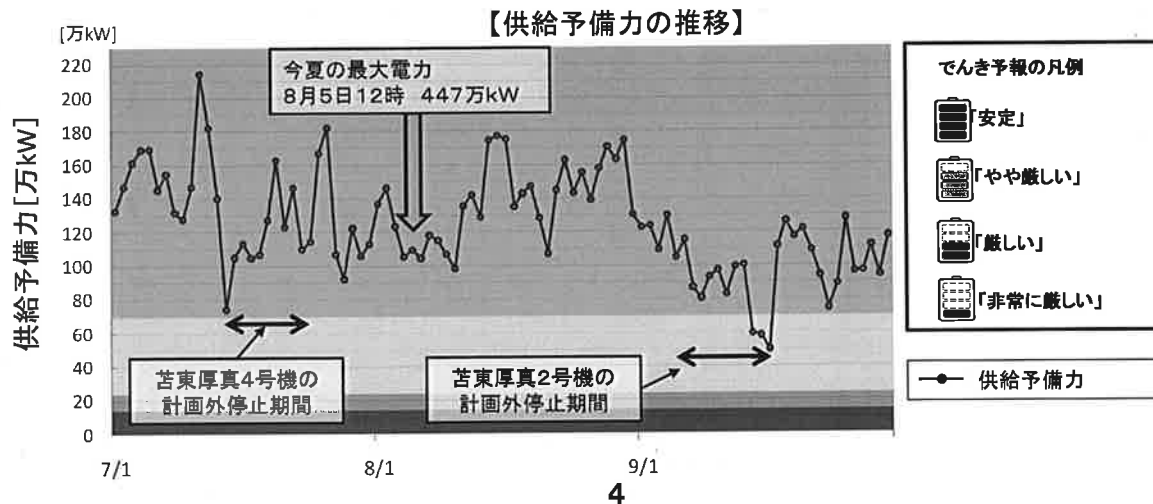


※数値(%)は、各用途における2010年度に対する減少率

※検針期間と気温の影響を除く当社試算値

4. 供給予備力の推移

- ・今夏は、当社最大級の火力発電機である苫東厚真発電所4号機（定格出力70万kW）と2号機（定格出力60万kW）が設備故障により停止したため、7月中旬と9月中旬の供給力が大きく減少しましたが、お客様の節電へのご協力により安定供給に最低限必要な3%の予備率を確保することができました。
- ・しかしながら、供給予備力が50万kW程度まで低下した日もあり、これらの計画外停止や気温上昇による電力需要の増加が重なった場合には、更に厳しい需給状況となる可能性があります。



まとめ

- ・今夏につきましては、8月5日に札幌市で最高気温34.5℃を記録しましたが、最大電力は447万kWとなり、今夏の最大電力想定472万kWを下回りました。
- ・また、平日の最大電力について、気温影響を考慮して比較した場合、景気による影響等は含まれるものの、2010年度実績との比較では平均で62万kW（12.5%）程度、2014年度実績との比較では16万kW（3.7%）程度の需要減となりました。
- ・お客様のご協力による節電効果が現れているものと考えております。
- ・供給面につきましては、当社最大級の火力発電機である苫東厚真発電所4号機と2号機がそれぞれ7月中旬と9月上・中旬に計画外停止し、その間供給力が大きく減少しましたが、お客様の節電へのご協力の他、気温上昇による電力需要の高まりと時期が重ならなかったことにより、安定供給に最低限必要な3%の予備率を確保することができました。

お客様の節電へのご協力に感謝申し上げます。